

(別紙6)

令和2年4月27日公表

審議会等会議録

会議名	富良野市地域福祉計画市民委員会 (令和元年度 第4回)
開催日時	令和2年3月9日(月) 午後5時30分から午後6時15分
開催場所	富良野市総合保健センター2階 会議室
出席者等	<委員> 久田 茂、山田 明、佐藤正勝、濱本 渉、佐藤里津江、 有澤 浩、松田尚美、南部榮一、郡司正人(計9名) <事務局> 若杉保健福祉部長、西尾福祉課長、岡田福祉係長
公開・非公開 の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <一部公開又は非公開の理由>
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
傍聴の人数	0 人
議事録の 作成方法	<input type="checkbox"/> 全文筆記 <input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープ
会議の内容	1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 協議事項 (1) 地域福祉計画策定に係る市民アンケート結果について (2) その他 (3) 新年度の予定 4. 閉 会
会議資料	・ 議案 ・ 富良野市地域福祉に関するアンケート結果報告書
その他特記事項	
問合せ先	保健福祉部福祉課福祉係 電話番号 0167-39-2211

市のホームページへの掲載 (掲載日 4月27日)

行政情報コーナー供覧 (供覧日 月 日)

令和元年度 第4回富良野市地域福祉計画市民委員会議事録

日 時 令和2年3月9日(月) 午後5時30分～午後6時15分

場 所 富良野市総合保健センター 会議室

出席者 久田会長、山田副会長、佐藤(正)委員、濱本委員、佐藤(里)委員、
有澤委員 松田委員、南部委員、郡司委員 (計9名)

事務局 若杉保健福祉部長、西尾福祉課長 岡田福祉係長 (計3名)

1. 開 会 (17:30～)

(進行:事務局)

皆様、こんばんわ。

ご案内させて頂きました、お時間となりましたので、ただ今より、第4回の富良野市地域福祉計画市民委員会を始めさせて頂きたいと思います。

開会にあたりまして、当委員会の会長でございます、久田会長よりご挨拶を頂きたいと思います。お願いいたします。

2. 会長挨拶

(久田会長)

皆さん、おばんでございます。

今回、新型コロナウイルスの感染症が蔓延しておりまして、感染予防の観点からも、今日の進行につきましても、前回同様皆様方のご協力を頂いてスムーズに進めさせて頂きたいと思いますので、今日はどうぞよろしくお願い致します。

3. 協議事項

(1) 地域福祉計画策定に係る市民アンケート結果について

(会長)

それでは早速、協議事項に入らせて頂きたいと思います。(1)の地域福祉計画策定に係る市民アンケート結果について、説明をして頂きたいと思います。

(事務局)

今回、富良野市が委託をかけてアンケート調査を行いました、「地域福祉計画策定に係る市民アンケート」の受託先であります、「株式会社 ぎょうせい」さんから、直接担当されました廣田研究員のご出席を頂いておりますので、廣田研究員から直接説明を頂きたいと思いますので、よろしくお願い致します。

(研究員)

皆様初めまして、株式会社ぎょうせいの廣田と申します。

今回の地域福祉計画の策定の見直しにあたりまして、事前に実施させて頂きましたニーズ調査の担当をさせていただいております。よろしくお願いいたします。

私からは、皆様にお配りさせて頂きました、「富良野市地域福祉に関するアンケート結果報告書」をご覧いただきながら、ポイントについて、ご説明をさせて頂きたいと思います。座ったままで失礼します。2:18

「株式会社ぎょうせい 廣田研究員」より、地域福祉に関するアンケート結果報告書の中から主な調査結果について説明を行う。

それでは皆様、「富良野市地域福祉に関するアンケート結果報告書」をご覧いただきたいと思います。

まず1ページですが、今回の調査対象につきましては、18歳以上の市民を対象とし、調査対象につきましては2,000人とし、無作為に抽出して発送しております。有効回答数は861件、回収率につきましては、43.1%となっております。

以後、アンケート調査の結果についてご説明させて頂きたいと思います。

2ページ・3ページの「回答者の属性」ですが、回答者の性別、年齢、職業、家族構成、居住地区、居住年数の属性につきまして伺っております。今回回答を頂いた方の年齢構成では、70歳代以上の方が最も多く36.9%の方から回答を頂き、次に60歳代の方が17.7%となっております。従いまして、アンケート結果に占める回答内容の割合は60歳代、70歳以上の方の意見が占める割合が高くなっていることを、予めご留意頂きたいと考えています。4:16

4ページ・5ページでは、回答された方が「世帯の家計について」どのように感じたかを伺った設問であります。

「普通」が4割強、「あまり余裕がない」と「余裕はない」を合わせた数値が5割弱となっております。年齢で見ますと、30歳代では普通が38.5%となっており、他の年齢層では40%を超えており、30歳代だけが低くなっていることが判ります。9:25

6ページ、「富良野市は暮らしやすいまちだと思いますか」という設問でございます。「暮らしやすいと思う」、「まあまあ暮らしやすいと思う」、「あまり暮らしやすいとは思わない」、「暮らしやすいとは思わない」、「わからない」という5つの選択肢を設定。

「暮らしやすいと思う」と「まあまあ暮らしやすいと思う」を合わせた数値が73.2%となっており、非常に多くの方が暮らしやすいと感じていることが分かります。反面、「あまり暮らしやすいとは思わない」と「暮らしやすいとは思わない」を合わせた全体数値が22.0%となっており、年齢別では、40歳代では「暮らしやすいとは思わない」が33.6%を占め、20歳代、30歳代、50歳代でも、「暮らしやすいとは思わない」が3割弱となっております。

8ページ、「今後近所とのかかわりをどうしたいか」の設問では、「とても親しくしたい」と「ある程度は親しくしたい」を合わせて75.3%であり、四人に三人は「親しくしたい」思っているようです。

反面、「あまり親しくしたくない」と「親しくしたくない」を合わせて11.9%となっており、回答者中、十人に一人は親しくしたいとは思っていないようです。11:22

9頁・10頁、「地域の中での問題点、不足していると思うものは何ですか」という設問を設定しています。最も多かった回答は、「地域活動への若い人の参加が少ない」でございます。続いて、「身近な交通手段がない」、「地域に関心のない人が多い」等となっています。性別で見ますと、男性では「地域活動への若い人の参加が少ない」、女性では「身近な交通手段がない」が第1位。年齢別では、40歳代以下では、「身近な交通手段がない」、50歳代以上では「地域活動への若い人の参加が少ない」が第1位となっています。

18頁、「福祉や健康に関する情報を十分に得られているか」という設問です。「十分な情報を入手できている」と「十分ではないがある程度入手できている」を合わせて73.7%、一方で「情報をほとんど入手できていない」と「情報をまったく入手できていない」を合わせて23.8%となっています。年齢別では、40歳代以下では「入手出来ている」が5～6割代となっております。若い方、「福祉や健康に関する情報を十分に得られていない」という認識が見受けられる結果でございます。

21・22頁、「福祉や健康についてどのような情報を知りたいですか」という設問でございます。全体で最も多かった回答は、「高齢者福祉・支援等に関する情報」、2場番目に「健康づくりに関する情報」、3番目に「各種相談窓口の設置情報」となっております。年齢別で見ますと、30歳代以下で最も多かった回答は「子育てに関する情報」、40歳代では「健康づくりに関する情報」が多く、50歳代以上では「高齢者福祉・支援等に関する情報」となっております。

24頁、「地域活動やボランティア活動への参加状況」について伺っている設問でございます。全体で見えますと、「参加していない」という方が64.5%、「参加している」という方が32.3%となっております。性別で見ますと、男性では「参加している」という方が39.6%であるのに対し、女性では「参加している」という方が26.1%と低くなっており、10%以上の差があることが伺えます。年齢別で見ますと、年齢が高くなるにつれて、「参加している」割合が高くなる傾向があり、10・20歳代では、「参加している」という方の割合が1割未満という結果でありました。

29頁、「地域活動やボランティア活動に参加したいと思えますか」という設問でございます。「ぜひ参加したい」、「できれば参加したい」のいう方を合わせて全体で41.0%、「あまり参加したいとは思わない」、「まったく参加したいと思わない」という方は全体で35.6%であり、「参加したい」が「参加したくない」を僅かに上回る結果となっております。性別では、男性では「参加したい」という方が46.7%、女性は38.3%となっておりますので、女性より男性の参加意向が高いことが伺えます。年齢では、30歳代・40歳代では、参加したいが4割未満となっており、他の年齢層より低くなっていることが伺えます。

32頁、「災害発生時の避難場所を知っていますか」という設問でございます。全体で見ますと、「知っている」の回答が70.6%、「知らない」の回答が26.1%となっており、

回答者の四人に一人は避難場所を知らないという結果になります。年齢別では、40歳代で「知っている」の回答が76.8%であり、他の年齢層に比べて高い結果となっています。

37頁、「成年後見制度についてどの程度ご存じですか」という設問です。半数以上の方が「存在は知っているが内容までは知らない」と回答されています。「存在と内容とも知っている」と割合については、どの年齢であっても20%代という結果でございました。

38頁、「判断能力が低下した時に契約や金銭の管理をする人はいますか」という設問でございます。全体で見ますと、「いない」という回答が18.8%となっています。年代別では、60歳代で13.2%、70歳代以上で11.9%となっており、回答者の十人に一人が、判断能力が低下した際に、何らかの不安を抱える事が想定されます。

39頁、「日常生活自立支援事業を知っているか」という設問でございます。全体で見えますと、「存在と内容とも知っている」という方が12.0%に留まっており、約半数の48.8%の方が、「存在は知っているが内容までは知らない」という回答、また、「存在することを知らなかった」が35.2%となっていますので、まだまだ、この制度の周知が進んでいない事がこの結果から伺われると思います。

40頁、「民生委員・児童委員の方に関する」設問となっています。この名前や制度は知っていますか」という質問でございますが、「知っている」という方が全体で84.1%となっており、多くの方がご存知である結果となっていますが、一方で「知らない」という方が12.3%でございますので、引き続き周知を徹底していく必要があるものと考えた次第です。

41頁、「地区の民生委員・児童委員が誰か知っているか」という設問でございます。「知っている」というお答えにつきましては全体で53.7%、「知らない」という方が45.6%となっておりまして、「知っている」というお答えが、「知らない」というお答えをやや上回る結果となっていますが、10歳代、20歳代では、「知らない」という回答が93.8%になっておりますので、若年層へのアプローチを考えていく必要があるかと考えます。70歳以上では、「知っている」という方が76.2%と高くなっていますが、40歳代から60歳代で40%代、30歳代で20%代となっていますので、特に若年層との接点が課題となっているように感じます。

42頁、「富良野市社会福祉協議会を知っていますか」という設問でございます。全体のうち最も割合の高かった回答は「名前は知っているが活動は知らない」が51.5%となっており、半数以上の方がこの回答を選択しています。「名前も活動も知っている」回答の方が34.7%となっており、回答者の三人に一人がこの回答を選択しています。

45頁、「福祉サービスの現状についてどのようにお考えですか」という設問を設定しています。「満足できる福祉サービスを受けている」、又は、「ある程度満足できる福祉サービスを受けている」とお答えいただいた方、一定以上の満足感を得ている方が全体の2割程度の回答となっております。一方で「十分な福祉サービスを受けているとは思わない」という方が11.1%という結果となっています。

47 頁、「地域福祉の基盤整備を進めていくために、優先した方が良いと思うことはどれですか」という設問を設定しています。最も多かった回答は、「在宅生活を続けられるサービス提供体制の整備」で 45.8%を占めており、他の選択肢と比べ圧倒的な結果となりました。年齢・性別別で見ても、「在宅生活を続けられるサービス提供体制の整備」全て第1位となっています。

49 頁から 51 頁の内容でございます。「誰もが安心して暮らせる地域にするために、あなたが重要と考える取り組みはどれですか」という設問を設定しています。全体の回答の中で、最も多かった回答は「子育て環境の充実」、次に「交通の利便性の確保を進める」、「周囲の理解と協力による見守りなどの支援」の順となっています。

51 頁に記載の内訳中、年齢別の回答で最も多かった回答は「子育て環境の充実」で、10・20 歳代、30 歳代、60 歳代の回答で第1位となっています。40 歳代、50 歳代では、「交通の利便性の確保を進める」という回答が最も多い回答となっています。居住地区で見ますと、富良野西中学校区では「交通の利便性の確保を進める」という項目が最も多くなっており、富良野東・麓郷中学校区で、「子育て環境の充実」が最も多い回答となっています。

52 頁、「地域福祉を充実させていく上で、行政と地域住民の関係について」の設問を設定しています。最も割合の高い選択肢となっていたのが、「住民も行政も協力し合い共に取り組む」という回答が 47.9%で、約半数の方がこの選択肢を選んでいました。また、「住民で助け合い困難な課題は行政援助」が 19.2%、「行政のできない福祉課題は住民が協力する」が 12.7%となっています。

以上、今回の地域福祉に関するアンケート結果報告書の主なポイントについて、ご説明させて頂きました。以上でございます。

(会長)

はい。ただいま、今回行ったアンケート結果報告書の中から、主な部分につきまして説明して頂きました。「なるほどな」という部分も数多くありました。各委員の皆さんから、ご意見等を伺いと思いますので、よろしく願いいたします。

(会長)

何かありませんか。

(委員)

いろいろな項目について細目にアンケート調査を行って頂いた中で、民生委員児童委員会の現状が見える回答結果もありましたので、今後はより強く周知活動に力入れていかなければならないと感じました。また、本日配布されました、「自由意見」の中にも、大変興味深い回答もありましたので、参考にしながら会の活動に繋げていきたいと思っております。

(委員)

各アンケート結果の数値が、全体数、男女別計、年齢別計、居住地区計等の数値が一致していない箇所がありますが、この違いは何か起きているのですか。

(研究員)

お答えいたします。アンケート結果を集計する際、アンケートの中で部分的に無回答（記入なし）の場合のカウントは省いて集計しているため、全体数と男女別計等が必ずしも一致しない結果となっています。

(委員)

最初の段階で、今のような説明をしてからアンケート結果報告書の説明をされると、アンケート結果報告書の内容が大変分かりやすいと思います。

(研究員)

ありがとうございます。只今ご指摘を受けました事項につきましては、1頁に記載の「本調査報告書の基本的な事項」の中に加えて明記をするよう、事務局と調整させて頂きたいと思います。

(委員)

今回のアンケートの最後の設問となっている、問36「福祉のまちづくりに向けて、何かご意見がございましたらご自由にお書きください。」の設問に対するアンケート結果内容が、会議案内時に送付された、「地域福祉に関するアンケート結果報告書」の中に記載がされていないのは何故か。記載がないことを確認し事務局に連絡して配布の要望を出したことから本日配られているが、アンケートの設問にありながら、結果報告書に記載されていないのはどうしてか。

(研究員)

自由意見の取扱いにつきましては、他の自治体においても様々な取り扱いとなっています。

今回行った富良野市が行ったアンケート調査で回収された中には問題となるようなケースはありませんでしたが、過去には特定の個人を中傷したり、非難するような記載が含まれた回答があったり、固有名詞や企業名等が記載されている事例もありましたので、事務局とも相談した上で、一般公表をしないことを前提に結果報告書をまとめています。

(委員)

本日配布された「自由意見」には、本音と思われる内容が記載されているように感じます。アンケートの中にある設問の一部でもあるので、委員へ配布するよう事務局

に要求したため本日配布となったが、要求をしなかった場合、「自由意見」として出た内容が委員会の委員には伝わらず、「事務局」と「研究員」しか知らないことになってしまう。地域福祉計画市民委員会に開示しないというのは、本来の形ではないと感じました。

(研究員)

ありがとうございます。

(会長)

G委員どうですか。

(委員)

N委員が言われたことも一理あると思いますが、事務局側で公にすることは望ましくないと判断されたことはやむを得ないことと思います。今回の市民委員会委員に配布されたことで良いのではないのでしょうか。

(会長)

事務局側で、今の件について、何かありますか。

(事務局)

アンケート調査の最終設問の「自由意見」を隠したという事ではなく、福祉計画を策定していく上でアンケート調査を行い、回答された件数等を整理し、各数値をグラフ等で記載しまとめたものを「アンケート結果報告書」とさせて頂き、「自由意見」として出された意見につきましては、別冊として「自由意見」として整理し今回配布させて頂いたところであります。

ホームページ上では、「地域福祉に関するアンケート結果報告書」として掲載させて頂きたいと思いますが、別冊とした「自由意見」の中には、地域福祉以外の意見等も若干散見されますので、ホームページ上では公開しない取り扱いとさせて頂くこととし、市民委員会委員の皆様には配布し、福祉計画を策定する中で参考にして頂ければと考えます。

(会長)

只今事務局の方から、そのような方向でということを進めて行くことが紹介されました。他にご意見ありませんか。

(委員)

47頁の設問にありました、「在宅生活を続けられるサービス提供体制の整備」の回答が45.8%という高い数値となっていることに、驚いております。今後、施設の規模等

も含めどのような整備を行うことができるか、皆さんにも協力して頂き考えて行きたいと思います。

(委員)

わたくしは、社会福祉協議会に所属しておりますので、42 頁からのアンケート結果に大変興味を持って確認しておりました。会にとっては、大変ありがたいアンケートの結果と感じています。

「名前も知っている」という回答がそれほど多くないという中で、年齢別では 30～40% という中で、居住地区別の回答の中で、布部中学校区の「名前も活動もしているが 54.2%と飛びぬけて高い回答率となっています。

思い当たる事由として、以前布部地区で冬場の床上浸水があった際、市と社協で地域の方とともに復旧作業をしたケースがあり、地域の方に「社協」を印象付ける要因となり結果に反映されたのではないだろうかと感じました。

山部中学校区、樹海中学校区でも、市街地と比べ高い回答率を頂きました。両地区とも、推進会議を開催しており、地域の方と意見交換する場面が多いことが結果に表れたのではないかと感じました。

今後、社協として、どのように市内で展開していくかが、社協としての今後の課題と感じました。今回のアンケートの結果は、大変ありがたいものとなりました。ありがとうございました。

(会長)

9 頁にある、「地域の中での問題点、不足しているもの」の設問では、「地域活動への若い人の参加が少ない」が最も多い回答結果となっています。

地域で若い人向けのイベントや遊び場所等がなく、地域から若い人が離れて行くことと関連する部分と重複していると感じました。

一通り意見をお伺いしたところですが、皆さん、次に進んでよろしいでしょうか。

(全員)

はい。

(会長)

それでは、次の(2)その他に入りたいと思います。

アンケート問 36 に係る「自由意見」ですが、どうしますか。

(事務局)

既に、本日の会議の中で、「自由意見」の取扱いについてのご意見を頂いているところですが、先ほど来より説明させて頂いておりますとおり、委員の皆さんには本日お配りさせ

て頂き、ホームページ等の公開につきましては、公開しない取り扱いをすることでご理解頂きたいと考えています。

(会長)

それでは続きまして、新年度の予定についてお願いします。

(事務局)

新年度の予定でございますが、昨年9月に開催しました市民委員会の中で2か年の予定を示しておりますので、そのスケジュールに基づき進めて行きたいと考えています。

令和元年度につきましては、市民アンケート調査の実施を行い、令和2年度は、福祉計画の策定年度として会議等を進めさせて頂きたいと考えています。

市民委員会の中では、地域福祉計画の進捗状況報告、計画の素案作成及び検討等を行い、その後、パブリックコメントの実施、市長への答申を行い、令和3年3月には、第3期富良野市地域福祉計画を決定したいと考えています。以上です。

(会長)

それでは、今日の議案の進行につきまして、これで終わりにしたいと思います。

第4回の富良野市地域福祉計画策定市民委員会を終了したいと思います。

よろしいでしょうか。

(全員)

はい。

(会長)

どうも、ありがとうございました。

閉会 18時15分